
 記 事

◎第9回理事会(昭.30.1.19)出席者:青木会長,菊池,藤井副会長,兼重,江里口,中路,後藤,星菰,片平,篠原の各理事,中川書記長,朝倉,榎箸,堀内の各書記。議事:1)12月中の行事その他報告,2)1955年土木関係国際会議について,3)JSC応力連合講演会運営委員会委員に次の諸氏を委嘱すること;委員長に本間仁氏,委員に奥村敏恵,内田茂男,後藤正司,久保慶三郎,星菰和の諸氏,4)海難防止港湾施設委員会委員に次の諸氏を委嘱すること;委員長に鈴木雅次氏,委員に鮫島茂,黒田静夫,嶋野貞三,岡部三郎,菊池明の諸氏,幹事に久保義光,佐藤肇の両氏,5)本年度夏季講習会は災害防止に関するものとし,担当理事で原案を作製のこと,6)土木工学ハンドブックの分冊について,7)土木工学叢書について,8)日本地球物理学会連合に土木学会が加入すること,9)第11回年次学術講演会の講演割当について,10)通俗講演会については星菰,片平両理事に一任,11)兼重理事栃木県土木部長に栄転されたが関東地区内近郊であり,かつ残存任期も次回総会までであるから,そのまま継続の事を了承,12)土木賞委員の地方委員には最後の1回のみ乗車船賃を支給する,ただし公務出張の場合は遠慮して貰うこと,13)JSC陸水分科会委員に安芸皎一,米元卓介,矢野勝正,内田茂男の4氏を推薦すること,13)会員の入退会について。

◎各種委員会

1. 第8回編集委員会(昭.30.1.21)出席者:最上,後藤正副委員長,河上東北地方委員,矢野関西地方委員,今井(代八木),大宮,吉川,久保,坂本,齊藤,西畑,林,丸安,三上,森,山本の各委員,中川書記長,徳平幹事,岡本編集部員。協議事項:1)会誌および論文集進捗状況報告,2)投稿論文および新規受付論文審査委員の決定,3)土木賞候補論文について審重的協議の結果,学会賞および奨励賞各7編を推薦した,4)推薦文調整のためさらに12月3日担当委員の参集を依頼,5)40巻3号登載論文を次のとおり予定した。

田淵・中原・菊池・矢野:日本学術会議と最近の動勢について,深谷俊明:三径間連続バリ橋における上揚力について,井田至春:自由表面を有する急勾配流れ,村山朗郎・畠昭治郎:土の切削抵抗について,伊吹山四郎:1941年以降のトンネルに関する外国文献。

2. 第8回学会誌抄録委員会(昭.30.1.7)出席者:左合委員長,樋口,中村,渡辺(修),梅田の各委員,

千秋幹事,徳平編集幹事,岡本編集部員。協議事項:1)40巻2号登載用として3編を予定(割当5ページ),2)繰越15編,新規4編について協議した。

3. 学会誌編集小委員会(昭.30.1.7)出席者:後藤副委員長,山本,大宮,今井(代山田)各委員,徳平幹事,岡本編集部員。協議事項:40巻2号編集について最終的打合せを行つた(64ページ)。

4. 土木工学ハンドブック打合せ(昭.30.1.5)出席者:福田前委員長,米元,丸安両前幹事,技報堂から大沼社長,渡辺編集部長,中川書記長。議事:ハンドブック再版について「読者の声」を集計すると491通中,感想欄記載なきもの117通,分冊希望が124通,一卷にまとめた点をよしとするもの25通であつたので種々協議の結果,

一冊にまとめたもの	1500部(3200円)
分冊のもの	2500部(上下2冊3500円)
分冊の場合	上巻は第15編まで
	1148ページ 定価1800円
	下巻は第16編から
	1022ページ 定価1700円

とする。

5. 海難防止に関する打合せ(昭.30.1.6)出席者:青木会長,菊池副会長,鈴木雅次,鮫島茂,黒田静夫,久保義光の諸氏,中川書記長。議事:1)日本学術会議内に洞爺丸事件を取上げて海難防止委員会があり,同委員会から港湾施設関係の検討を土木学会に委嘱する方針であること及び経過を同委員会委員である菊池副会長から説明,2)土木学会内に海難防止委員会を設置し,2,3回委員会を開催して大体の決論をうること。3)委員に本日出席者のほかに岡部三郎,嶋野貞三の両氏を追加し,幹事として佐藤肇氏を追加委嘱する。

6. 第1回海難防止委員会(昭.30.1.12)出席者:青木会長,鈴木,鮫島,岡部,嶋野,黒田,菊池の各委員,久保,佐藤両幹事,ほかに北海道開発局港湾部長倉島一夫氏参加。議事:1)委員長を鈴木雅次氏にお願いすること,2)前回打合会の経過説明,3)本委員会は今回の事件のみにとらわれず,港湾施設と海難に関する問題を研究することとし,次回までに運輸省港湾局で資料を集めること,4)函館港のほかに他の港についても研究を進めること。第2回同委員会(昭.30.1.26)出席者:鈴木委員長,鮫島,岡部,嶋野,黒田(代中道),菊池の各委員,久保,佐藤両幹事,中川

書記長、捧箸主任。議事：菊池委員から本委員会の名称を海難防止港湾施設委員会と変更するとの提案があり一同了承、佐藤幹事から各港の災害資料の説明があり、要望事項を審議の結果次回までに立案すること。

7. 第21回コンクリート鉄道構造物委員会(昭.30.1.13) 出席者：吉田委員長外各委員，議事：27条許容応力度のうち、基礎に関する修正案を検討。

8. 第31回プレストレストコンクリート委員会(昭.30.1.14) 出席者：吉田委員長，友永，国分，川崎，山田，田原，村田，海上(代白木)，渡辺(代木村)，木村(代星野)，菅原，深谷，樋口，猪股，田村，川口の各委員。議事：第34，35条を逐条審議，第32回同委員会(昭.30.1.28) 出席者：吉田委員長，国分，猪股，宮崎，三浦，友永，樋口，渡辺(代木村)，村田，山崎，山田，海上(代白木)，田原，川崎，片平(代宮崎)，田村，川口の各委員，議事：第36～39条逐条審議。

9. 水理委員会(昭.30.1.17) 出席者：安芸委員長，本間，岩塚，市浦(代原田)，岩井，寺島(代水谷)，吉川，小林，坂本，左合，柴原，嶋，竹内(代岸)，田中(淑)，浜田，細井，村，横田(代阿部)，米屋，渡辺，藤本(代手塚)，石原，中安，近藤の各委員。議事：1) 国際水理学会議提出論文の審査，提出論文3編のところ，なお2篇くらい追加する見込み，2) 本年度国際水理学会議の紹介，3) 地球物理学研究連絡委員会陸水分科会委員候補者推薦について了解を求めた。4) 日本地球物理学会連合会結成について本間委員より説明，5) 土木学会内に海岸工学委員会を設置の希望があつた。

10. 日本地球物理学会連合会結成準備会(昭.30.1.17) 東大地震研究所会議室において；本間教授出席報告あり，経過：昭.29.11.19 各学会代表者による相談会において連合結成を決定，29.12.15 相談会決定の線にしたがい下記要項を決定，30.1.17 連合結成準備会として開催し，結成までの正式段取が相談された。

- 1) 本連合は，日本地球物理学会連合と称し，日本における地球物理学関係諸学会の連合体であつて，加盟各学会間の連絡，協調，親睦をはかつて，わが国地球物理学の発展に資することを目的とする。
- 2) 連合の事務は当番学会をきめて行い，連絡先は当分日本学術会議地球物理学研究連絡委員会幹事気付とする。
- 3) 加盟各学会より連絡幹事1名を出し，連絡会を開く。連合の事務を総括するため当番学会より別に主任幹事1名を出す。
- 4) 構成学会は，○○学会，○学会，……である。(付：いままでに連合の結成準備会に出席した学会

は，測地学会，地震学会，地球電磁気学会，気象学会，農業気象学会，海洋学会，陸水学会，水理研究会(土木学会)，火山物理学会である)

- 5) 構成学会の分担金は当分の間年1000円とする。以上の要項に基づき本日きめられたことは，第2項—当番学会は1年交替，もしまわりを原則とする。第1年度は地震学会となつた。
- 第3項—水理研究会加盟の場合，連絡幹事は本間教授の予定。
- 第4項—構成学会として加盟の可否を2月中旬までに返事をする(準備会出席の学会のほか，雪氷学会，温泉学会が参加の見込である)。
- その他—連合の正式発足は2月末日の予定である。

11. 第1回土木賞委員会(昭.30.1.18) 出席者：伊藤令二，坂本信雄(代森)，当山道三(代酒井)，沼田政矩，福田武雄，松村孫治，吉田徳次郎，三丁目喜一郎(代田中)，矢野勝正，青木楠男，菊池明，藤井松太郎，最上武雄の各委員，中川書記長，徳平，捧箸の各主任。議事：

- 1) 委員長互選の結果吉田徳次郎氏に決定。
- 2) 論文審査方法
 - (a) 例年のとおり編集委員会で下調べを行い学会賞，奨励賞とも各10編くらいを選定して内容説明書を提出して貰うこと。
 - (b) 一論文を2人以上共著の場合若い人に奨励賞を，または学会賞をすでに受けた人との共著の場合等は一応編集委員会で協議の上当委員会で個々の場合について検討すること。
 - (c) 土木賞委員が特に推薦したいものがあれば1月末日までに委員長に申出て貰うこと。本日欠席された方にはその旨通知する。しかし編集委員会にはこれに拘束されないこと。
 - (d) 支部の刊行物の中で優秀な論文があれば委員から申出て貰つて審議すること。
- 3) 土木賞授与方針は編集委員会から推薦された論文中より，学会賞，奨励賞各2編を選定して投票すること。
- 4) 2月10日頃までに下調書を作製の上各委員にあらかじめ送付すること。
- 5) 代理者は第2回まではさしかえなないが第3回の開票の際は代表者を認めないから地方委員には旅費を支給するよう理事会に提案する。

12. 法面築堤崩壊防止研究委員会(昭.30.1.18) 出席者：沼田委員長，最上，星塾，福岡，高坂，宮崎の各委員，八十島，渡辺，三木(代今村)，和仁，伊崎，齊藤，白石，松波の各幹事，別所，尾崎，高橋，

岡安, 小檜山, 逸見, 池守, 溝口, 町田, 原口, 真柳, 山内, 島田, 原島, 加茂の各関係者, 中川書記長, 堀内主任, 議事: 1) 白新線における土圧測定の中間報告, 2) 中川における施工概要, 3) 水没斜面の安定について(飯田線大嵐駅付近水没斜面の処理問題), 同第2回委員会(昭.30.1.30~2.1 飯田線大嵐駅現場において)出席者: 沼田委員長, 最上, 星埜, 高坂, 福岡, 小田の各委員, 八十島, 渡辺, 齊藤, 高橋, 小檜山, 白石, 別所, 杉田, 池原, 伊崎の各幹事, その他現地関係者, 議事: 水没法面安定について大嵐駅構内を視察し, その対策及び一般的法面防護問題について審議した。

◎その他

1. 正員 安東 功(攻玉社短大教授, 中大講師)氏から土木学会発展のため金一封寄付を受けたのでここに深謝の意を表する。

2. 熔接学会会長から日本学術会議内に「国内における熔接に関する研究の中核となり, 国際熔接学会(International Institute of welding)を主な対象とする国内委員会」として熔接研究連絡委員会を設置し, 当学会から推薦した成瀬勝武, 奥村敏恵の両氏を委員として委嘱することになったとの報告に接した。

3. 日本セメント技術協会では来る5月18日から3日間第9回セメント技術大会を開催するとの通知に接した。

4. 日本工学会より明年第7回日本工学会大会を開催について協力方要請があつた。

5. 名誉員 前川貫一氏は昭和30年1月13日, 同丹羽鋤彦氏は1月18日, 元西部支部長 三瀬幸三郎氏は1月19日逝去せられたので, それぞれ青木会長から弔辞と花環を靈前に呈し, 謹んで哀悼の意を表した。

支部だより

1. 東北支部 支部主事松本龜松君転任のため後任として東北地建企画部計画検査課長補佐椋田安忠君を委嘱した。

2. 関西支部 見学会(昭.30.1.22)参加者約70名, オリエンタルコンクリート木津川工場でプレストレストコンクリート製作状況及び同床版載荷実験。

3. 西部支部 第11回幹事会(昭.30.1.10)出席者: 田代幹事長, 武田, 下津, 下川, 上田, 和田, 古賀, 天方, 石川(代)の各幹事, 本部中川書記長外柳川, 古江両君, 議事: 1) 冬季研究発表会について, 2) 講演会並びに映写会について, 3) 水害調査報告書作成について, 4) 昭和30年度総会開催について, 5) 会計中間報告, 6) 昭和29年度土木賞委員の推薦について, 講演会並びに映写会(昭.30.1.24)出席者: 約150名,

講演: オランダの干拓工事, 間組 田中敬親氏
映画: 横浜のサイロ

次の各氏が逝去されました。本会はこの間に会員を代表して謹んで哀悼の意を表します。
正員 相馬千一(29.11.15), 正員 森田国暢(29.12.25 殉職), 准員 入山伸吾(29.12.29), 正員 大倉一平(29.2.18), 准員 大野 実(29.8.27), 正員 吉田好文(30.1.5), 正員 久保瀬太郎(30.1.6), 正員 佐藤俊策(30.1.12)。

昭和30年1月分入退会報告(昭.30.1.1~1.31)

- 1. 入 会 102名(正27, 准35, 学生40)
- 2. 退 会 22名(名誉2, 正11, 准9)
- 3. 転 格 3名(准より正2, 学生より准1)

会 員 現 在 数(昭.30.1.31 現在)

名誉員	賛助員	特別員	1級	2級	3級	正員	准員	学生員	合計	増加数
20	16		33	76	150	5358	6157	1647	13457	80

昭和29年2月10日 印刷
昭和29年2月15日 発行
土木学会誌 第40巻 第2号 定価 100円
編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川 一 美
印刷者 東京都港区赤坂溜池5番地 大沼 正 吉
印刷所 東京都港区赤坂溜池5番地 株式会社技報堂
東京中央郵便局区内 千代田区大手町2丁目4番地 電話(20)3945-4078
発行所 社団法人 土木学会 振替東京16828番